

## 1 主要な施策の成果の概要

令和4年度は、一昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、引き続き、関係機関との連携・協力の下、「感染症拡大防止に向けた取組」、「市民生活及び子どもたちへの支援」、「地域経済への支援」の感染症対応の3つの柱に基づく取組を実施しました。あわせて、感染動向を注視しながら、コロナ禍を踏まえてこれまでの間、従前どおりの開催を見合わせていた各種事業についても、極力開催できるよう創意工夫に努めました。他方、国際情勢に起因する物価高騰により、市民生活や市内経済が大きな影響を受けることになったことから、市独自の対応も含め、必要な支援策を講じてきました。

こうした状況の中で、市は、後期基本計画及び総合計画の最終年次として、引き続き、市民の安全・安心の確保と市民生活支援を市政の第一の責務としつつ、基本計画に位置付けた5つの重点プロジェクトを基軸に、「横断的連携による施策の推進」と「調布のまちの魅力発信」の2つのアクションの実践により、施策全体の効果的な推進に取り組みました。

「横断的連携による施策の推進」については、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実や子育て家庭の支援、困難を抱える子ども・若者支援のほか、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組や各種相談体制の強化、ソフト・ハードが一体となった魅力あるまちづくりに取り組みました。また、市民生活支援や市内経済の再活性化に向けた各種取組を含め、分野横断的に組織や施策の枠を越えて対応すべきテーマについて、情報共有や課題解決に向けた連携・調整を図りました。

「調布のまちの魅力発信」については、多様な主体と連携・協働する中で、利便性や快適性、自然環境、産業・観光のほか、東京2020大会等に係るレガシーの継承など、調布のまちにおける多様な魅力の向上を図るとともに、動画やインターネット、ソーシャルメディアなどの活用や各種事業の実施を通じて、市内外への積極的な発信に努めました。

まちづくりの重点的な取組や諸施策の推進に当たっては、引き続き、市政経営の2つの基本的な考え方の下、行革プラン2019に位置付けた、市民参加と多様な主体との連携・協働の推進などの「参加と協働のまちづくり」や、簡素で効率的な組織体制づくり、事務事業の見直し・改善、限られた経営資源の最大限の活用、財政の健全性維持など、「持続可能な市政経営」に向けた取組を推進しました。

これらの取組や市政を取り巻く状況及び課題を踏まえ、令和5年度を初年度とする新たな調布市総合計画（基本構想、前期基本計画）を策定し、8年後のまちの将来像として、「ともに生き ともに創る 彩りのまち調布」を掲げました。

昨年来、「脱コロナ禍」への意識が拡大する中、再びまちに活気とにぎわいがもたらされ、市民生活にも明るい兆しが感じられるようになってきています。そのような中で、令和5年度は、新たな総合計画の初年度として、引き続き、市民生活を大切にすることを原点に据えつつ、まちの将来像の実現に向けた取組を堅実に進めて参ります。